

令和7年度 指定管理施設の管理運営に関する月次評価について

施設所管課名：福祉こども部子育て支援課

1 施設概要

施設名称	総合医療センター病児・病後児保育センター
指定管理者名	公益社団法人地域医療振興協会
指定期間	令和4年4月1日～令和8年3月31日（5年間）

2 月次評価

評価月	評価
4月	1. 5月2日に現地確認を行い指定管理者から運営状況を聴取し協定書に基づいた運営が行われていることを確認した。業務日誌や保育記録、午睡チェック表、医師連絡票、利用料減免申請書の帳簿も鍵のついた棚に保管されていること等から、適切に管理されていることを確認した。 病院移転に伴い、パンフレットを新たに作成した。今後周知のため、愛らんどなど周知を行っていくとの報告あり。また、駐車場や入口を誤って、総合医療センターの駐車場や正面入り口を利用してしまう方が多いため、パンフレットにも写真付きで分かり易く掲載したとの報告あり。 2. 4月の利用実績 ・利用者 病児 延べ4人 病後児 延べ4人 ・キャンセル待ち中利用できなかった数 病児 延べ0人 病後児 延べ0人 4月の利用 利用者は延べ8人で、前月までと比べて大きく減少（前年同月と比べ延べ利用者数は－14人）。インフルエンザの利用は0人で、多くは気管支炎や上気道炎が中心。久里浜地区は児童数の多い地域だが、センターの久里浜への移転による大きな影響はみられない。引き続き、利用者の増加について注視していきたい。
5月	1. 5月26日に現地確認を行い指定管理者から運営状況を聴取し協定書に基づいた運営が行われていることを確認した。先月指導した「5歳以上の病児は5分ごとの睡眠チェック」に関しても、センター内で共有および実施されていた。食事介助は複数体制で行い、職員が病児から目を離さないよう配慮しており、薬の内服もシリンジを使うなど工夫していた。食後は誤嚥や窒息予防のため、30分間横にならないよう指導し、必要に

	応じて抱っこ対応を行うよう指導した。また、医師との協議の結果、申込み時のコロナ検査は不要となり、パンフレットも速やかに修正・配架したと報告あり。ただし今後もできるだけ検査実施の協力は依頼していく予定とのこと。 2. 5月の利用実績 ・利用者 病児 延べ13人 病後児 延べ5人 ・キャンセル待ち中利用できなかった数 病児 延べ0人 病後児 延べ0人 5月の利用 利用者は延べ18人で、前月より増加したが前年同月と比べると5人程減となっている。今月は、同じ利用者の方が複数日にわたって継続して利用されるケースが多く見られた。5月は例年利用者が少ない時期だが、主な利用理由は扁桃炎、上気道炎、胃腸炎などが多くみられた。センターの移転後も問い合わせ件数に大きな変化はみられない。今後も利用状況を見ながら、利用者増に向けた周知方法についてセンターと検討していく。
6月	1. 6月24日に現地確認を行い指定管理者から運営状況を聴取し協定書に基づいた運営が行われていることを確認した。6月中旬には利用希望者が多く、全ての部屋を使い病児（最大3名）を受け入れることがあり、その際は総合医療センターの看護部へ応援を依頼し、適切に対応できていることを確認した。業務日誌や保育記録なども適切に管理されている。また、予約システム「あずかるこちゃん」において、予約開始時刻（通常は前日の7時30分）よりも前（午前0時）から予約が入ってしまう事象が発生したため、速やかに運営会社へ報告を行い、修正をおこなったとの報告あり。速やかに対応をとっていることを確認した。 なお、利用者がいない日には引き続きおもちゃの消毒や室内清掃、院内研修を実施するなど、衛生管理・職員研修にもしっかりと取り組んでいることを確認した。 2. 6月の利用実績 ・利用者 病児 延べ19人 病後児 延べ1人 ・キャンセル待ち中利用できなかった数 病児 延べ1人 病後児 延べ0人 6月の利用 6月の利用者は延べ20人で前月までと比べて多少増加している。例年6月はRSウイルスの診断がついた利用者が増え始める時期だが、今年はまだRSウイルスによる利用は見られず、主な利用理由は上気道炎や咽頭

	炎、胃腸炎となっている。 市民からの問い合わせ件数も 10 件ほどで、これまでと大きな変化はみられない。 3 月の久里浜への移転後当初は総合医療センターと病児・病後児保育センターの入口や駐車場を間違える方が多かったが、新規利用者の多くが市のホームページで事前に確認していることから、最近は間違える方はいなくなったとの報告あり。
7 月	1. 7 月 24 日に現地確認を行い指定管理者から運営状況を聴取し協定書に基づいた運営が行われていることを確認した。安全面では、室内の鍵のぶがこどもの手の届く位置にあるため、病児・病後児が触れられないよう全室にカバーを設置していることを確認した。センター入口では職員用 IC カードでロック解除できる仕組みとなっているが、病院職員全員が IC カードを所持していることから、さらに番号式の鍵を追加で設置し、二重の管理体制をとっていることを確認した。 また、感染予防の観点から定期的に手洗いチェッカーを用いたダブルチェックを実施しており、衛生管理が徹底されていることを確認した。 以上のように、協定書に基づき、安全対策や衛生管理等の観点からも適切に運営が行われていることを確認した。 2. 7 月の利用実績 ・利用者 病児 延べ 25 人 病後児 延べ 5 人 ・キャンセル待ち中利用できなかった数 - 病児 延べ 2 人 病後児 延べ 0 人 7 月の利用 7 月の延べ利用者数は 30 人であり、4 月（8 人）、5 月（18 人）、6 月（20 人）と比べて、引き続き増加傾向にあった。主な利用理由は、ヘルパンギーナや RS ウイルス感染症、上気道炎、咽頭炎などであり、特に夏場に多い RS ウイルスによる利用も増えてきている。 7 月は延べ利用者数をもっとも多かったが、実際の利用者数は 11 人であり、同じ利用者が複数日にわたって継続利用しているケースが多く見られた。 一方、市民からの問い合わせはほとんどなく、新規利用者もみられない状況であった。今後も引き続き、利用状況の推移を注視していく。
8 月	1. 8 月 25 日に現地確認を行い、指定管理者から運営状況を聴取し、協定書に基づいた適切な運営が行われていることを確認した。当月は感染認定看護師（感染制御室）による抜き打ちのチェック指導が実施され、感染対策の徹底について確認と指導があったとのこと。具体的には、トイ

	レでは水が飛び散るため掃除用品などを回りには置かず、使用時はリネン室から取り出す運用へと改善すること、キッチンのガラス製食器棚の危険性を指摘され他の棚を設置すること、洗濯室では掃除用品などを床に置かず棚を使用すること、また下駄箱の上や水回り付近にはマスク等の衛生用品を置かず、専用ワゴンなどを使用し管理することなどが指摘された。これらの指摘事項については速やかに対応し、衛生管理のさらなる徹底を図るとの報告あり。以上から、安全・衛生面の指摘箇所については速やかに改善対応を進めており、協定書に基づき適切な管理運営が行われていることを確認した。 2. 8月の利用実績 ・利用者 病児 延べ 11 人 病後児 延べ 3 人 ・キャンセル待ち中利用できなかった数 - 病児 延べ 0 人 病後児 延べ 0 人 8月の利用 8月の延べ利用者数は 14 人で、実際の利用者は 9 人だった。例年この時期は夏休みやお盆が重なるため、利用者数が少ない傾向にある。 また、新規利用者や問い合わせもほとんどなかった。 昨年の 8 月は病児が延べ 11 人、病後児が延べ 5 人利用しており、今年もほぼ同様の利用状況となっている。なお、RS ウイルスやプール熱などでの利用はなく、主な診断名は咽頭炎、上気道炎、感冒など、年間を通じて多い疾患での利用のみだった。今後も引き続き利用状況の推移を注視していく。
9 月	1. 9 月 26 日に現地確認を行い、指定管理者の運営状況について確認した。先月、院内の感染認定看護師による抜き打ちチェックで指摘された「下駄箱や水回り付近に衛生用品を置かず専用ワゴンを利用する」等の感染対策については、病児室・病後児室それぞれに専用ワゴンを設置するなど、速やかに適切な対応がなされていることを確認した。また、新規採用の保育士との顔合わせを行い、引継ぎ状況も確認した。業務日誌・保育記録・利用料減免申請書帳簿についても鍵付き棚での保管状況を確認し、適切に管理されていることを確認した。大きなトラブルやクレームもなく、円滑に運営されている。 2. 9 月の利用実績 ・利用者 病児 延べ 23 人 病後児 延べ 9 人 ・キャンセル待ち中利用できなかった数 - 病児 延べ 1 人 病後児 延べ 0 人

	9月の利用 延べ利用者数は32人で、4月から9月の中で最も多い結果となった。主な疾患は上気道炎、気管支炎、咽頭炎、胃腸炎で、おたふく風邪による利用も見られた。問い合わせは少なかったものの、新規利用者がやや増加した。なお、令和7年度のこれまでの推移をみると、毎月病児の利用が多い状況が続いている。
10月	
11月	
12月	
1月	
2月	
3月	